

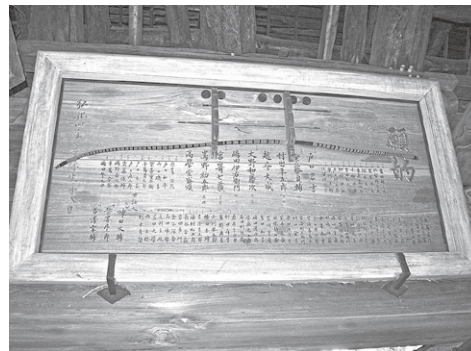
高山不動とは
飯能市の高貴山常楽院、通称高山不動（飯能市高山346）は、飛鳥時代の白雉5年（654）に開山されたと伝えられる真言宗の寺院で、古くから密教、修験の道場でもありました（『飯能市史 資料編XI』）。越生町黒山と接し、黒山と龍ヶ谷の境を走る尾根伝いには高山不動の参詣道「高山道（四寸道）」が整備されていました。境内には樹齢800年と言われる「高山不動の大銀杏」（県指定天然記念物）や「常楽院不動堂」（県指定有形文化財）、平安時代の彫像として知られる国指定重要文化財「木造軍荼利明王立像」などを安置



県指定有形文化財「常楽院不動堂」



扁額「不動堂」



奉納額（弘化4年<1847>）



不動堂の柱に「柱一本 入間郡小杉村 岩田久右エ門」と刻まれている



越生浪漫

No.186

最近の調査から
—高山不動—

している収蔵庫があります。軍荼利明王像については決めた御開帳日に拝観することが可能です。一面二眼八臂、檜の一本造ながら像高228.8cmと大型の仏像で、尊容には独特な表現があり神秘的な雰囲気を感じさせています。飯能市立博物館にレプリカが展示されています。

越生との関係性

一方、高山不動の項には龍穩寺開山の無極慧徹が当山へ奉納した品「五大明王御影板」、「当山山籠僧無極奉納文一篇」について記されています。先般、不動堂を見学させていただいたところ、扁額「不動堂」が龍穩寺57世文山蘭明の揮毫であると判明しました。連綿と続いた寺院間の行き来を示す重要な資料です。この不動堂は文政13年の火災で焼失し、天保2年（1831）に再建された建物で、飯能市HPの解説文は「天保2年の棟札には、棟梁4名の墨書をのせ、また当時県下でも著名な名匠を後見とするなど、一山をあげての復興事業の跡が窺えます。」と説明しています。今

回の見学で、本堂を支える円柱に「柱一本 入間郡小杉村 岩田久右エ門」と刻まれているのを発見しました。お堂には江戸時代から平成にかけての奉納額が数多く掲げられています。この中には弘化4年（1847）に越生や梅園地区、近郷在住者が奉納した弓術に関する額も見られます。

所在する寺院を四国八十八霊場に見立て、武州新四国八十八霊場を開きました。法恩寺住職らは当霊場の第十六番を「龍ヶ谷の仏心院」と定めて、仏心院の奥の院は常楽院としています。しかしながら仏心院の所在地は特定されていません。大館右喜氏は『幻の武州八十八霊場 埼玉の古寺をたずねて』で、龍穩寺周辺にあった真言宗寺院として

越生小学校

6月4日（火）、5日（水）に4年生が今年度からふるさと教育の一環で森林体験学習を行いました。越生町地域おこし協力隊の方々にご協力いただき、伐採をする理由や皮むきのやり方等を教えてもらい、木の皮むき体験をすることができました。



梅園小学校

6月13日（木）は、1～3年生が梅干しづくり体験教室を行いました。今年度は、保護者の方にお手伝いをしていただき、梅のへたを竹串で取り除いたり、樽に塩と梅を交互に入れてつけたりしました。できあがりを楽しみます。

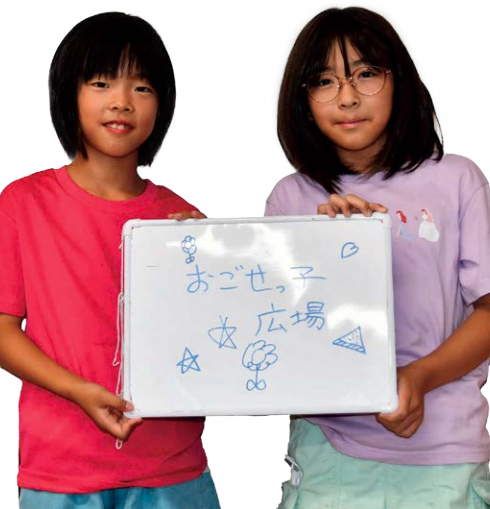


越生中学校

6月20日（木）・21日（金）に、今年で29回目を迎える立志発表会が行われました。自らの進路を考え、自分の将来について熱く語る3年生の堂々とした発表を、参観した1・2年生が憧れの眼差しで見つめていました。

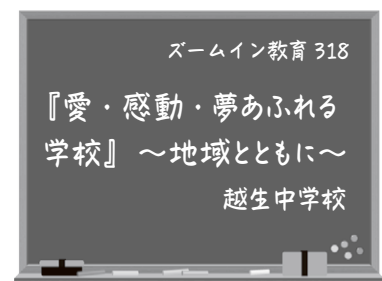


越生中学校では、本年度、生徒数二百十三名、教職員数三十二名で、順調に教育活動に取り組んでいます。校訓は「立志」、学校教育目標は「自立の力を育む」、そして本年度の目指す学校像を「愛・感動・夢あふれる学校」とし、地域とともに育ちました。自分も自分とつながる全ての人達や物も大切にできる愛をもつこと。授業や行事、部活動等を通して「わかった」「できた」「やり遂げた」の感動体験を味わえる学校生活を送れること。この二つの土台の上に「こんなことができるようになりたい」「将来こんな人になりたい」と夢（志）を持ち努力できる学校づくりを、地域の皆様とともに推進してまいります。豊かな美しい自然、歴史と文化が薫る素晴らしい環境のもとで、今年の生徒たちも、これまで多くの先輩たちが大切にしてきた「越中生としての自信と誇り」を受け継ぎ、



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。



日々の授業や部活動、学校行事等に前向きに取り組んでいます。生徒たちには越生町で培った力を自信とし、地域のため、世の中のために活躍できる人に育ってほしいと願っています。本年度も温かいご支援をよろしくお願いいたします。

